

<安全に楽しむためのルールとマナーを守りましょう>

ウィンドサーフィンはとても自由なマリンスポーツですが、ウィンドサーフィンのメッカであるが故に混雑する日が多いのも確かなことです。事故や怪我があれば、楽しいはずの休日が台無しになってしまいます。誰もがウィンドサーフィンを楽しみ、上達を目指しているのですから、ルールやマナーを理解して、大勢のウ

ィンドサーファーが楽しく過ごせる逗子の海にしていきたいと思います。また、ここに記載する内容はあくまでも逗子湾でのルール及びマナー、いわばローカルルールです。他のゲレンデには、特有のルールが決められているケースがありますので、その際にはそのゲレンデのルールに従うようにしましょう。

海上のルールとマナー

衝突などの事故を避けるためには守るべき事があります。競技ではないのでマナーを守ることが最優先ですが、ルールもありますので、理解しておくことがとても大切です。

■衝突を避けること

◆他艇との衝突を避けなければなりません

最優先すべきは衝突を避けることです。ルールを振りかざして優先権を主張していいというものではありません。

■安全距離を保つこと

◆他艇との安全距離はマスト2本分、約10m程です

他の艇との衝突を避けるには、セイルが倒れてもぶつからない距離、約10mが必要です。やむを得ず安全距離よりも近くを通る場合は、十分にスピードをコントロールしましょう。フリースタイル時などの不安定な状態で他艇に近づくのも危険なことです。

■他艇の進路妨害をしないこと

◆方向転換時は他艇の進路を妨害しないようにする

タックやジャイブなどの方向転換時には他艇を避ける義務があります。他艇の進路上での方向転換はしないように心掛けましょう。

■3大ルールを守ること

◆3大ルールを守りましょう

ウィンドサーフィンは、海上衝突予防法の帆船ルールを適用しています。次の3つのルールが基本です。

- ①ポートタック艇はスターボードタック艇の進路を妨げてはならない
- ②風上艇は風下艇の進路を妨げてはならない
- ③後行艇は先行艇を避けなければならない

陸上でのマナー

- ◆砂浜に道具を置く際には周囲に迷惑が掛からないように注意しましょう。
- ◆ボードやセイルは風にあおられないように置きましょう
- ◆波打ち際にボードやセイルを置かないようにしましょう
- ◆海岸への通路になる付近にボードやセイルを置かないようにしましょう
- ◆ビーチにボードを置く際はできるだけフィンを下向きにして砂に差し込むようにしましょう
- ◆できるだけフィンケースを活用しましょう
- ◆出艇や帰艇の際には、風向きを判断して安全に行うようにしましょう

ウェイブライディング中のマナー

◆ウェイブライディング(波乗り)をしている艇は他艇を避けるようにしましょう。

逗子湾に西風が入ると、西浜ではスタボーでアウトに向かい、東浜ではポートでアウトに向かうこととなります。東浜からの出艇では波に乗ってきたスタボー艇がポート艇を避けることになり、3大ルールと矛盾することとなるのですが、自由に進路を取らないと波を越えていけずに、波に巻かれてしまう人を保護するためのローカルルール(マナー)と考えて下さい。

自己防衛とシーマンシップ

事故を起こさないようにするのは当然ですが、どんなに注意していても事故が起こってしまうこともあるでしょう。そんな時に備えて何をしておくべきか、どのような心構えが必要かを考えてみましょう。

■決して無理をしすぎないこと

◆やめる勇気を持つこともとても大切なことです

自分にとってのハードコンディションや、コントロールに自信がないような場合には、無理に海に出ようとしないことも大切。他艇との接近時に自信がない時には、セイルを倒すなどの方法で衝突などを回避することも視野に入れておきたいものです。

■非常時に備えておきたいこと

◆牽引ロープを携帯すること

シートのトラブルの際や、レスキュー時に役立つ牽引ロープを所持していることも安全策のひとつと言えるでしょう。4m程度のシートをハーネスやライフジャケットに付けておけば、いざという時に役に立ちます。

◆浮力体の着用を推奨します

衝突事故だけでなく、何らかの外的要因によって気を失っていたり、足がつって泳げないといった単独の事故も考えられます。そんな際に助けてくれるひとつのアイテムが浮力体です。荒れている海やオフショアの強風などのコンディションでは浮力体が命を守

てくれることもあります。ウィンドサーフィン用の浮力体はインパクトベストという呼び方もされていますが、浮力の補助だけでなく、耐衝撃性も備えているタイプもあるので、1着は所持しておくといいでしょう。

◆レスキュー信号を知っておきましょう

トラブルが起きた際に発する信号は、両手の平を広げ、頭上で腕を交差させる動作を繰り返すことです。道具を支えるなどしているために片手になることもあるかも知れません。また、一方でトラブルのように見えていても大丈夫ですよ、という意味の信号は、片手の拳を握りしめ、腕を真っ直ぐに突き上げておくことです。

◆トラブルかな?と思ったら・・・

他のセイラーがレスキュー信号を発しているかどうかを判断することは決して簡単ではないかも知れませんが、トラブルが確実に起こっていてもいなくても、疑わしいと思われる場合にはできる限り他の人に伝達し、助けを求めましょう。そうした早期の対応が被害の拡大を抑えることに繋がる可能性があるからです。また、救助には大勢の人力を必要とするものですので、できる限り多くの人の力を借りることも大切です。

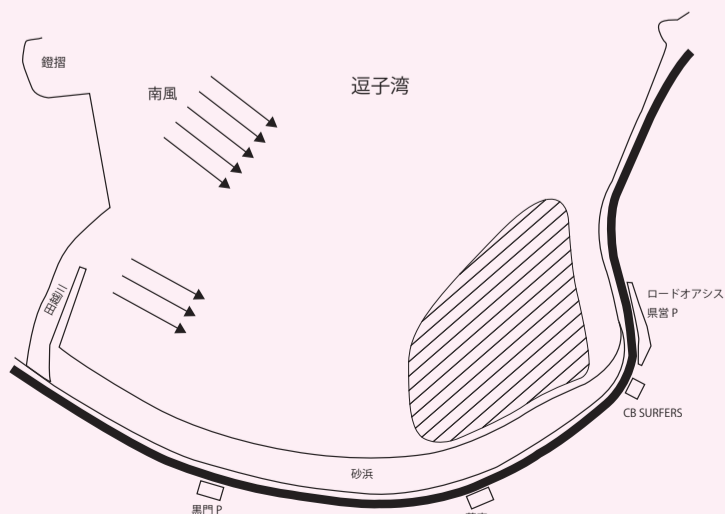
◆海上のトラブル発信先は「118番」

何かのトラブルの際に、海上保安庁の助けを必要とする場合もあるでしょう。その時は、ダイヤル「118」です。ウィンドサーフィンを楽しんでいる以上、知っておきたい番号です。

■混雑時などの注意喚起エリア

◆十分に注意が必要な混雑時

衝突などの可能性が高いのは、主にオンショアコンディションです。イラスト上の斜線エリアは、南風の際に特に混みやすい場所となっています。初心者からベテランまで多くのセイラーがいますので、このエリア付近では特に自艇のスピードに注意しましょう。いつでも止まれるようなスピードを意識しておくといいでしょう。



■マリッジットやヨットの出艇エリア

◆西浜と東浜の出艇エリアに立ち入らない

西浜と東浜にはブイで区切られたマリッジットの出艇エリアがあります(右イラスト斜線部)。また、西浜ではブイと突堤の間がヨットの出艇エリアとなっています。できる限りそのエリアには立ち入らないようにしましょう。

